

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

（令和元年6月6日 午前10時55分）

●議長（森山木の実） 会議を再開します。

通告の7、青柳秀吉議員。

- 1 病院アンケート及び病院に関すること（信濃町立信越病院に関する町民アンケート調査票）
- 2 病院医業収支比率について
- 3 地域医療構想策定委員会について

議席番号8番・青柳秀吉議員。

◆8番（青柳秀吉） 議席番号8番・青柳秀吉でございます。先に通告しました3件ほどについて、質問したいと思います。

まず、病院アンケート及び病院に関することなのですが、私も知らなかったのですが、過日、信越病院に関する町民アンケート調査票が、役場と総合会館に行ったときにありました。アンケートについては、過去、信越病院あり方検討委員会、あるいは、役場の中のプロジェクトチームで作成していますが、今度の調査票は、何に活用されるのですか。町長にお願いします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 青柳議員さんのご質問にお答えをさせていただきます。過日、病院のアンケートについて実施をさせていただきました。これは、今、先般もある議員さんのご質問でも若干、ふれさせていただいた部分があるのですが、病院を今後どういうふうに進めていくかというようなことの中で、平成26年の8月にあり方検討委員会の中で、アンケートの実施をしました。今、プロジェクトチームでアンケートをというお話しもありましたけれども、プロジェクトチームでは、アンケートは特に行っておりません。と、思います。これやはり5年近く、その当時のアンケート、経過、時期的に経過をしているわけでございます。そんな中で、主に病院を利用されている皆さん方の思いも、さらにまた、補完的に聞きしながら、その計画に反映していきたいと、こういうことで、アンケートの実施をさせていただいたということでございます。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8番（青柳秀吉） アンケートについて、ここにあるのですけれども、アンケートの目的、それと実施後にどうするのかという文章が書いてありますので、読んでみます。「信越病院では、新病院建設に向け計画の作成を進めています。その中で、町内唯一の病院

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

としてまた、町の病院として、町民の皆様のニーズや新病院に対する要望等を把握するために、アンケート調査を実施します。アンケート実施後はどうするのかと、ご協力いただきました皆様のアンケートを集計し、結果を新病院計画へ反映させていただきます。新病院を、より町民の皆様に寄り添ったかたちにしたいと考えていますので、ご協力ください。」じゃあ、今までの信越病院検討委員会等についての内容は、あまり参考にはならなかったのかな、なんていうふうに勝手に思っちゃいますけれども、この件についてはちょっと、後ほど回答についての設問をご披露申し上げますけれども、これが本当に、真剣に考えてやった内容の設問なのか、またお伺いします。

それでは、次の質問ですけれども、過日、防災しなので、病院において、50 才以下の女性採用の放送がありました。これ長く続きましたね。その方は、今度の委員会のメンバーとして、諮問委員会に参加し、何の仕事をするのか。ちなみに、諮問委員会というのは、昨日の同僚議員の中にもありましたが、平成 25 年第 22 回経済財政諮問会議には、自治体病院について論議されました。メンバーには、議長には安倍総理、それから、議員には麻生副総理、あるいは、菅官房長官など、錚々(そうそう)たる人物が参加されています。諮問委員というのは、そうした性格を持っています。こういう中で、実際どういう仕事をお任せするのか、これも昨日ちょっとふれたような感じがあるのですけれども、もう一度、どうして 50 歳以下の人に限るのか、分からないのですけれども、私の耳には、もう出来上がって、採用する人は決まっているというようなことも、伝わってきますけれども、それは事実かどうか、それはわかりません。どういう仕事をするのか、意見を聞くだけです。その辺について、お知らせください。町長。お願いします。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 基本的には昨日もお話ししましたように、あり方検討委員会の条例設置の委員会を経て、そして、事務的なプロジェクトチームを発足させていただいて、検討してきているわけでございます。いよいよ基本的な計画を策定する段階に入ってくるこの中で、コンサルタントを含め、その委員の皆さん方の幅広いご意見も頂戴しながら、計画に反映していきたいということでございます。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） ここにありますアンケート調査票については、誰が、どの部署が、作成したのか、それともコンサルタントが作成したのか、もし、コンサルタントが作成したのであれば、どのくらいのお金を払ったのかだけ、教えてください。病院の方でもいいです。

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

■病院事務長（外谷場佳子） それでは事務的なことですので、私の方からお答えさせて

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

いただきたいと思います。アンケートの内容につきましては、コンサルティング会社から提案をいただく中で、私ども事務局と、中身を調整して作らせていただきました。また、費用の面につきましては、すでに契約している中でやりましたので、新たな負担は生じておりません。以上でございます。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） 費用は生じていませんということなのですが、以前に、補正予算だったかな、1 千 7 百何十万の金額が出ていましたね。その金額ですか。コンサルタントにお支払いするのは。

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

■病院事務長（外谷場佳子） 私の方からお答えさせていただきます。1 号補正で、年度を今年度に移させていただきました金額につきましては、契約金額でございます。このアンケートについても、その中で対応させていただいております。以上です。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） 先ほど申しましたようにアンケートの設問について、また皆さんにちょっと、私の方で読んでみますので、ご判断してもらえればわかりますけれども、これがコンサルタントが作ったアンケートかというような内容と、私は思います。お金を払うだけの価値があるアンケートかどうか、ちょっとわかりませんが。その設問についてはまた後でいきますか。病院建設も、町長の初めての選挙、それから今年に入って、あと 5 年は掛かると。そうすると、都合 10 年近く掛かるわけですね。私もあちこち会社も 7 つ変わり、あちこち業種は等しく変わっていませんけれども、こんなにあのぐらいの病院で、10 年もかけて出来上がるというのは、ちょっと不思議だなという部分を感じております。病院に関しては、今すごく変化していて色々難しい問題ができてあります。長野県においても、審査委員会ができておまして、そのメンバーが錚々（そうそう）たるメンバーでございまして、例えば、相澤病院の理事長の相澤孝夫先生とか、市民病院の元院長の竹前先生とか、いろいろ医師会関係の先生方が絡んだ委員会ですけれども、この保険の保険医療関係について、非常に昨今、不安定になっておりますけれども、町は審議会の動向を見て、保健医療を取り巻く環境は、先ほど言ったように常に変化しており、少子高齢化の進展、医療技術の高度化、ニーズの多様化など、状況に適切に対応するために、体制の確保を考慮していると感じております。それで、少しずつ少しずつ遅れてきているのかなと、良い方に考えればそう考えております。慎重にやっているんだろうとは思いますが、病院というのは、病気を治して、患者さんを社会復帰させる唯一のものであり、信濃町には、診療科を備えた病院は一つしかありません。開業医はありません。歯科医だけですね。病院というのは清潔であり、患

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

者にとって治療しやすいところでなければならない。少子高齢化社会になれば、病院で亡くなる方も、平均的にかなり高くなってきております。日本の病院での死亡例というのを見ますと、1951 年では、だいたい 11 パーセントしかなかったのですね。それが、ちょっと古いデータですが 2005 年ではもう、82.4 パーセントと急増しております。ですから、10 人いれば 8 人以上は、病院で亡くなるという状況下で、病院の重要性、必要性というものは、ものすごくあると思います。ですから、住民の病院に対する希望とか、期待というものは一番あったと思います。そういう意味で今度、できあがる委員会も、ぜひとも、それに合った内容の人達と話を進めて、良いものを作り上げてもらいたいと思います。ただ、今言ったように、審議会というのは、錚々(そうそう)たるメンバーが普通入ってやるものであって、あまり公募でやるものじゃないと思っております。いろいろ人様に言わせれば、「なんか出来レースみたいな感じがする。」というようなことも言っております。具体的な氏名までも上がって、私の所へは、聞こえてきますけれども、これは蓋を開けてみないと、それが事実かどうか、それはわかりません。今回のアンケートに関しましては、以上でございます。

それから、2 番目の直近の医業収支比率を、直近のいいです。かなりこれは、前からやっておりますので、この医業収支比率になぜ、常にこだわるかと言いますと、これは本当の、医業だけで利益がある程度どのくらい出ているのかという指標になるものです。以前から問題になっている病床稼働率は 70 パーセントを越しておりますので、これは問題ないと思います。それから、給与収支比率、これもだんだん下がってきているので、良い傾向には入ってきているとは思いますが、まだ 60 パーセントぐらいで、ウロウロしているのではないかなと思います。それから、医業収支比率について、この前ちょっとお聞きしたら、最近のやつはまだ出てないということなので、直近のいいですから、医業収支比率だけ教えてもらえますか。

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

■病院事務長（外谷場佳子） 私の方からお答えさせていただきます。医業収支比率につきましては、直近のことになりますが、正確なものにつきましては、平成 29 年度のものとなりますが、そちらについては決算書の方で、ご報告をさせていただいておりますので、ご覧をいただきたいと思っております。30 年度、今決算をしている途中でございますが、速報値と言うか、概算ということでお答えをさせていただきますと、医業収支比率につきましては、75.5~6 パーセントぐらいになるのではないかと今、決算を進めているところでございます。以上でございます。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） このまま 100 パーセント越していかないと、赤字を続けていくこととなりますので、ぜひこれは、100 パーセントを目指してやっていただきたい。この医業収支比率というのは、本当に大事なものであって、経常収支比率の場合には、繰入金

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

が入ってきますので、それである程度、平らになってきますけれども、医業収支比率だけは、そういうものを含んでいませんので、これが下がってくると、大変なことになってくるというふうに考えております。私も最近、リハビリに行っておりますけれども、けっこう患者さんも多くて、みんな患者さんも喜んで来ているように受け止めております。ですから、病院そのものについては、患者さんの皆さんも、喜んでいてのではないかなという感じをしております。

それから、次の質問ですけれども、地域医療構想策定委員会について、簡単に、内容について教えてください。これ、私共、よく分からない部分もあるし、県の医療審議会でも、内容がなかなか分からないので、分厚い資料できますので、これ、簡単に皆さん、多分、ここにいる議員の方々も、そんなによく分かっている方はいないと思うので、分かりやすい程度でいいですので、この内容について、教えてください。

●議長（森山木の実） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） それでは、今の青柳議員の質問にありました、地域医療構想策定委員会ということでございますが、こちらにつきまして、私は、長野医療圏地域構想調整会議へ、委員として出席しておりますので、私の方からご説明をさせていただきますと思います。

まず、この医療法の改正に伴いまして、地域医療構想については、長野県第2期信州保険医療総合計画において、策定をされました。ということで、長野県において、この委員会、青柳議員がおっしゃいます委員会が設定されているものです。この中では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域に必要とされる医療の維持、充実を図り、将来の需要に応じた体制の構築に向けた構想を、考えていくということでございます。長野県を10の二次医療圏に分けまして、信濃町は長野医療圏構想区域に入っております。こちらにつきましては、長野市を中心とした9市町村からなるエリアの中に信濃町がそのエリアに入っていると。会の名称は先ほどお伝えしましたように、長野医療圏地域医療構想調整会議ということでございます。こちらの会議、それぞれの圏域で調整した中で策定委員会、県全体の委員会の方に、そういったものが上がっていくということでございます。委員には、医療関係者、団体の代表者、住民の代表、医療保険者、それから、市町村からということで、町からは私が委員として出席をいたします。事務局は長野保健福祉事務所というところで行っておりまして、長野市の医師会長が、調整会議の会長になっております。現在、その調整会議、県全体の策定委員会と方向性は一緒でございますが、2025年に向けた病床数の設定を行います。その目標に向かっていくということでございまして、長野圏域は、今現在の数字が手元になくて申し上げられないのですが、2025年度に必要とする病床数は、この圏域内では4420床ということで、その圏域内で医療機関、相互にする情報交換を行っておりまして、今後、またそれも含めて、医師の確保による計画や対策、また公立、公的病院の医療機関の役割についても、今後この中で、協議を行っていくということでございます。国の方から、医療に関わるさまざまな政策が出てまいりますので、それについて、この中で、長野圏域

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

内の状況について、先ほどの 2025 年の目標 4220 床と申し上げました。今現在、長野圏域内全体で 4914 床ということで、信濃町の信越病院については、許可病床数は 99 床ということで、登録をされているものでございます。以上です。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） 今、説明いただいた中でベッド数の件にありましたけれども、これ、標榜しているベッド数に対して、国から交付金がきているはずですね。だけれど、これも実際稼働しているベッド数で、先ほど言いましたけれども、総務省から言われているパーセンテージですが、70 パーセント稼働率がないと、だめだというふうに言われておりますけれども、これは今度、稼働ベッド数で、申請ベッド数だけじゃなくて、そういうところまで踏み込んで、そうしないと、今度交付金は下りないような体制に持っていくというふうに国は、考えているみたいです。実際、難しいですけれども、70 パーセント越していればいいのですが、稼働するといっても、入院患者がいなければ稼働はしませんからね。ですから、今までのように、国保の患者さんが、隣町まで行って受診しているという体制は、早く直さないと、この信越病院で受診してもらうように対策を考えないと、難しい局面になるというふうに思っております。ですから、国も県もそうですけれども、かなり厳しく医療のことについては、口を出してくるというふうに、私は聞いております。ですから、どういうふうに言ったらいいかわかりませんが、医療も経費削減の対象の中の大きな目玉になっているのではないかとこのように思います。それでは、このアンケートの設問について、問 11、12、13、14、その前の 1 から 10 までの一般的なものですが、この内容当たり前のことを聞いているのですよね。これが、コンサルタントも入って、しかも現場の人と打ち合わせの中で、これを作ったというふうに、先ほど事務長が申しましたけれども、問 11 に、「今後も町内に入院可能な病院は必要ですか。」という問いなのですよね。これは、絶対必要ですよね。答えが、絶対必要だ。町外で入院できれば入院機能はいらないと、どちらかと言えば必要だと。答えをチェックしてもらう内容についても、これがコンサルタントがやる内容なのかというふうに、私は思っています。これ、当たり前のことなのですね。問 12 に、「入院できる規模は、どのくらいあれば良いと思いますか。」普通の町民は、よくわかりませんよ。患者の入院の状況あるいは、外来の病気の内容を把握をしてないと、どの位に設定するのか、それは普通の人は考えないと思いますよ。それは、入院できる規模はどの位であればいいと思いますか。それから、問 13 に、「入院治療が必要になったとき、どのような入院治療が受けられればいいと思いますか。」その下の回答文章があるのですけれども、これ 1 つ読んでみます。がんや脳卒中、心筋梗塞など大学病院が行う専門的で高度な入院治療ができるのが、必要なかどうかということだね。それから、肺炎や高熱の病気に対して入院治療ができるかと。子供の発熱等に対して入院治療ができるかと。これ、大事なのですが、末期がん患者などを受け入れて、痛みを和らげる、そういう痛みからの解放をするための入院治療ができる、これ、大事なことなのですから、これは普通病院ではやっていると思うのですけれども、この内容が、回答書の内容

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

が、あまりにも、誰にでもできるような回答書だと思うのです。その問いもそうなんです。問も、私もそう思っています。これが、コンサルタントが入って、検討した結果の内容なのかというふうに思うのです。それから、問 14、「今後、信越病院に望むことはなんですか。」①将来も医療を提供し続けること。それは、そうですね。病院がないんですから。これは、やるでしょう。やれるでしょう。それから、②専門的手術や入院体制の充実。これは、病院の身の程も知ってやっているわけですから、大学病院みたいに高度な医療はおそらくできないし、医療機器に関しましても、金もかなり掛かると思いますので、これはちょっと難しいかなと思います。これ、色々あるのですけれども、皆さん、これ、知ってました。だから最初に、アンケートの目的、それから、アンケート実施後どうするのかという部分について、先ほど、話しをしておりますけれども、こういう内容のアンケートでございます。これが、金をかなり払っているんだろうと思いますけれども、さっき補正予算で 1700 万円と言っていました。これ、他の部分も入っています。アンケートのためのお金じゃございませんので、こういう幼稚なアンケート作成は、どうなのでしょうかね。それぐらいにしたいと思いますけれども、このアンケートするのも、もうちょっとオープンにしたらよかったですと、私だけしか知らないのかなと思って聞いたら、知らない人が多いんですね。それと、これ何箇所設置したのでしょうか。それと何通、多分、この間パソコンで調べてみたのですけれども、載っていないんですね、最近もう。どのくらい回収できたのか、今もホームページにあるのかどうか、ちょっと教えてもらえますか。回収できたのであれば、何通回収できましたか。

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

■病院事務長（外谷場佳子） それでは、私の方から、お答えをさせていただきます。アンケートの回収につきましては、5月23日時点でございますが230通、それぞれ病院、公民館の関係、役場の方に置かせていただきました。その他、病院に掛かっていらっしゃる方を主にイメージをして、アンケートをさせていただいておりますので、お子様をお持ちの方、お母さま方というか、保護者の方ですね、できればアンケートを頂戴したいということで、住民福祉課の方へもお願いをいたしまして、そういった事業の際に、アンケートをお願いさせていただいたところでございます。以上です。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8番（青柳秀吉） 最初の方に戻りますけれども、今度募集した人の中で、50歳以下の人に限定していますよね。これは、どうして50歳以下に限定したのか、教えてください。

●議長（森山木の実） 外谷場病院事務長。

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

■病院事務長（外谷場佳子） では、私の方からお答えをさせていただきます。昨日の議員さんの一般質問の中にも、こちらの策定委員会のことについて、お話しをさせていただいたところではございますが、一応、12 名をもって委員会を組織する中で、やはりどうしても年齢構成的に、男性の比較的年齢の高い層が、委員さんになる場合が多い、役職でお願いする場合、特にそうなりますので、可能な限り、やはりお子様をお持ちの世代、子育てをされている世代の方に入っていたいただきたいということで、一応年齢を区切りさせていただきました。以上でございます。

●議長（森山木の実） 青柳議員。

◆8 番（青柳秀吉） それ、区切る必要があるのでしょうかね。年齢のいった人だって、良い考えを持っている人いるんだろーと思いますけれども、女性の 1 人が 50 歳以下の人に限定しているの、もっと若ければ産婦人科を移設するとか、産科をもっと強く入れて、医者連れてくるとか、そういう問題もあります。でも、どうなのでしょうかね。この、募集した人たちの、こういうアンケートを取るに値する研修とか、勉強とか、そういう問題はやはり、しなくてよろしいのでしょうかね。私は、必要だと思うのですね。だって、長野県の諮問委員会の人達は、みんな医師会の人とか、すごい錚々（そうそう）たるメンバーが入っているのですよね。信越病院については、12 名のおそらく、たぶん地元の人達が入ってくるんだろーと思いますけれども、実名まで上がってくるのはどういふことなんだろーと、私は思うのですけれども、それはさっき言ったように、蓋を開けてみなければ分かりませんが、蓋を開けた時に、それがその人であれば、やはりそうだったのかなというふうには、私は思います。私も、情報については、色々な情報が入ってきます。それは、取捨選択して、これは、質問してもいいのかなと、質問しない方がいいのか、これは決めています。これ、重要な問題なのですよね。病院を建て替えるというのは、この事情もすごく変化しているので、行政の方では、色々考えながらやっているんだろーということは、先ほど申し上げたとおり、考えているんだろーと思います。しかしこの、策定委員会というのは、本当に専門的なことを話し合うので、それも必要だろーと思いますよ。でも、コンサルタントが入って、そういう話しかできないのか、ここに今言ったような話しかできないのかというのが、私の疑問のことです。以上聞きたいことは、病院のことはいっぱいあるのですけれども、この辺でやめておきたいと思っておりますけれども、医業収支比率だけはやはり、上げていってもらいたいと思っております。そうしないとこの病院、経営できなくなりますよ。患者もなにか特定の科だけ、整形外科だけ混んでいますが、他は以外とガランとしているのですよね。それがやはり不思議だなと思います。みんな良い先生が来ているのだろーと思いますけれども、そういうふうには思います。私が質問したいと思ったことは、以上です。まだ、深くやればいいのですけれども、やったところで、回答が出るか出ないか分かりませんが、ぜひ、病院の建設については、早め早めにやってもらいたいと、10 年もかけないでやってもらいたいというふうには思います。以上で、私の質問を終わります。

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議会議録（3 日目）

- 議長（森山木の実） 以上で、青柳秀吉議員の一般質問を終わります。以上をもちまして、一般質問を終わります。本日の日程は、全部終了しました。お諮りいたします。委員会審査のため、本日午後から 6 月 13 日までの間を休会としたいと思います。これにご異議ございませんか。

（なしの声）

ご異議なしと認めます。よって、本日午後から 6 月 13 日までの間を休会とすることに決定しました。なお、6 月 13 日木曜日は、議会運営委員会が午後 1 時から予定されておりますので、時間までにご出席ください。本日は、これで散会といたします。ご苦勞さまでした。

（午前 11 時 34 分）